

春告草

令和3年度 第6号 令和3年10月 6日 進路指導部発行

模試、過去問を活用しよう！

秋からの受験勉強は、問題演習が中心となってくる。模試や過去問を適切に活用することができれば、弱点の補強に効果的だ。

①模試は偏差値よりも得点！

前回（第5号）の「春告草」でも述べているが、模試の結果で大切なのは得点である。点数の低い科目、分野は、補強すべき部分なのは言うまでもない。40点を50点に上げるのは、80点を90点に上げるよりも容易なので、志望校に合格するための「伸びしろ」と前向きに考えてほしい。

また、「国語の偏差値を5あげる」よりも「国語を10点あげる」のほうが学習目標として明確だ。標準偏差の10分の1が、偏差値を1あげるのに必要な得点なので、参考にしてほしい。

②解答戦略を立てて、試そう！

これから過去問の演習を本格的に始める時期である。過去問は「解いて終わり」ではなく、本番の解答戦略を立て、それを試すために活用しよう。志望校の出題形式や傾向の把握はもちろん、制限時間内にどの順序で解くか、1題にどのくらい時間をかけるか、解けなくてもかまわない難問はどれか…、といったことを判断しながら、解き進めよう。

解答順序や時間配分については、事前にある程度決めておくのがよいだろう。それがうまくはまらなければ、作戦を練り直し、試行錯誤を重ねていこう。

過去問の演習では、問題の難易度や解くのにかかる手間などを、見極めることも重要だ。例えば「問1と問2は確実に解くべき問題だ」「問6のような設問は時間がかかる」「医学部向けの難問が混じっている」など、志望校の傾向を押さえ、判断できる力を養っておこう。

③DE判定でも、可能性は十分にある！

模試の判定はあくまでも目安なので、一喜一憂しないこと。特にA判定が出ているからといって油断してしまうと、大変危険。模試ではA判定だったのに、本番は不合格だった…というのは、よくある話だ。B判定も同様である。

一方、CD判定はチャンスである。あと少しで合格圏内にはいる位置というのは、モチベーションを上げるのに最高だ。自分の弱点を補強すれば、次はもっと点数が伸びて、より合格に近づくはずだ。

E判定だって、まだまだいける。補強すべき部分が多く、このままでは厳しい状況なのは、自分が一番わかっているはず。だが、あきらめずに猛勉強し、ここから逆転合格した例はいくらでもある。受験勉強を始めてから成果が出るまで3ヶ月～半年ほどかかる。つまり、現役生が伸びてくるのはこれからなのだ。

④過去問だけに偏った学習は、NG！

過去問を「ひたすら解くだけ」の勉強では、難関大の入試には対応できない。過去問を解くことはもちろん重要だが、復習を侮ってはいけな。問題演習と基礎固めを往復することにより、学力が定着するのだ。過去問や模試で「できていなかったところ」を書き出して可視化し、そこを徹底的にやりこもう。教科書や問題集の目次をコピーして、単元や分野ごとに自分の理解度を○△×で付けるのもオススメだ。

⑤解答は丁寧に記入しよう！

模試の成績表で、ダブルマークや無回答になっている箇所はないだろうか？ 自分は正しく塗っているつもりでも、芯の成分によっては機械が認識しなかったり、消したあとの解答用紙の「へこみ」をマークとして認識してしまったりすることがあるのだ。

せっかくの努力が水の泡にならないよう、マークシートに適した筆記用具を使おう。丁寧に記入することに意識を向けてほしい。

大学入試の基礎知識(第6回)

受験にまつわる「お金」のはなし ～修学支援新制度～

2020 年度から、国の「高等教育の修学支援新制度」が始まった。支援の対象者となるのは、①世帯収入や資産の要件を満たしていること、②学ぶ意欲がある学生であること、の2つの要件を満たす学生全員である。

この新しい制度は、「授業料・入学金の免除または減額（授業料等減免）」、「給付型奨学金の支給」の2つの支援によって、学ぶ意欲のある者が進学をあきらめないようにすることを目的としている。

現在、日本の奨学金制度で最大のものは、「日本学生支援機構（JASSO）」が運営するもので、その利用者は全国で約 127 万人（2019 年度：大学生のほか、大学院生、短大生、専門学校生なども含む）と、国内の奨学金利用者のほぼ 9 割を占める。それ以外にも、多くの大学や団体などで、多種多様な奨学金制度を設けている。

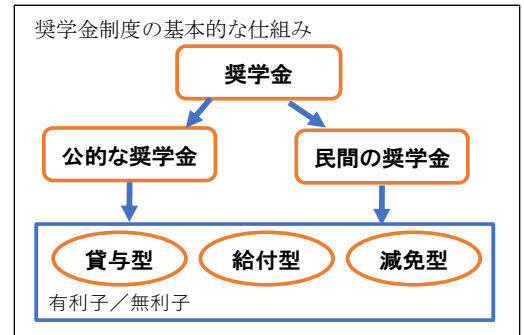
奨学金の利用を考えるならば、①利用しやすいものか、②利用の目的は何か、③特徴とメリット・デメリット、などを念頭に置いて、検討しよう。

奨学金制度の仕組み

奨学金制度は、大きく分けて2つのタイプがある。ひとつは、学生時代に受け取った奨学金を卒業後に全額（場合によっては利子も）返済する「貸与型」。もうひとつは、返済する必要がない（つまり、全額もらえる）「給付型」だ。

「貸与型」には利子がつくものと、つかないものがある。金融機関等のローンに比べ、利率はかなり低く抑えられているが、将来的にかなりの返済額を背負うことになる。当然、利子のないタイプのほうが、負担が軽い。

「給付型」は返済する心配はないものの、大学1年生から利用するためには、高校での学業成績や、入学試験の成績（入試の得点や順位など）、さらに入学後の成績が優秀であること、家庭の経済状況による審査など、条件が厳しく、募集人員も少ないことが多い。



医療・福祉系を目指す学生を対象にしたもの

医師や看護師、社会福祉士などを目指す人を対象とした奨学金がある。基本的には「貸与型」だが、卒業後に奨学金を運営する組織や団体などが定める条件をクリアすれば、返済が免除される（「減免型」）。具体的には、奨学金を利用して卒業し、国家試験に合格した後で、奨学金を貸与した団体や機関、自治体などの病院や医療機関で一定期間（医学部の「地域医療枠」は9年程度が多い）働くことで、返還が免除される。学費が高額になる私立医療系を受験する人にはありがたい制度だが、卒業後の選択肢が限定されてしまう。目先の金額ではなく、働きはじめて課される条件をじっくりと比較検討したほうがいい。

日本学生支援機構の奨学金制度について

ここからは、利用者数の多い「日本学生支援機構」について説明していく。日本学生支援機構の奨学金には、「貸与型」の奨学金と「給付型」の奨学金がある。

「貸与型」には、卒業するときに利子がつかない「第一種」と、利子がつく「第二種」がある。第一種・第二種に申し込む際、家庭の収入の上限や学力の基準等が設定されており、第一種の応募条件は第二種より厳しい。日本学生支援機構によると、第一種の利用者が約 57 万人であるのに対し、第二種は約 70 万人となっている（2019 年度：大学院生、短大生、専門学校生なども含む）。

「給付型」は、学力基準や家計基準がある。裏面に資料を掲載しているので、詳細が知りたい人は読んでみてほしい。給付型奨学金の対象となれば、大学・専門学校等の授業料・入学金も免除又は減額される（授業料・入学金の免除・減額は大学等が、給付型奨学金の支給は日本学生支援機構が行う）。また、貸与奨学金と同時に申し込むことができる。

申し込み方法は？

①高校生または既卒生で、来春の大学進学を想定して申し込む「予約採用」と、②大学進学後すぐに申し込む「在学採用」がある。5年生で大学進学後に奨学金を活用しようと考えている人は、早めに保護者と相談しておこう。6年生も、予約採用の申請ができなかったからといって、あきらめることはない。大学に合格したら、入学後すぐに進学先の大学で募集があるので、申し込むことができる（在学採用）。

予約採用の場合、「まだ進学先が決まっていなのに」「学部、学科を迷っているのに」という疑問を持つ人もいだろう。申し込み時に進学先が決定していなくても問題はないので、心配ご無用だ。予約採用された後、様々な事情から辞退することになっても、ペナルティはない。

高校生のみなさん！

授業料等の免除・減額と給付型奨学金による

新しい修学支援制度について知っておこう！

高校卒業後の進路を考えると、お金のことが気になる…話しにくいけど、大切なことです。お金の心配をせずに進学できるよう、保護者の方と一緒に調べてみましょう！

Point 1

対象になる学校は？

一定の要件を満たした、大学、短期大学、高等専門学校（4年・5年）、専門学校に通う学生が支援を受けられます。

進学を希望している学校が制度の対象になっているか、文部科学省のホームページで、調べてみましょう。



Point 2

どんな学生が対象になるの？

要件を満たす学生全員が支援を受けられます。高等学校や大学等ごとの人数制限（推薦枠）はありません。



世帯収入や資産の要件を満たしていること

住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯



進学先で学ぶ意欲がある学生であること

成績だけで判断せず、レポートなどで学ぶ意欲を確認

基準を満たす世帯年収は、家族構成により異なります。

進学後にしっかり勉強しなかった場合には、支援が打ち切られます。

① この世帯にも要件があります。詳しくはJASSOや文部科学省のホームページや、学校から希望者に配付される「給付型奨学金案内」等で確認してください。

将来、社会で自立し、活躍できるよう、しっかりと勉学に励むことが大切です

Point 3

給付型奨学金の支給額は？

住民税非課税世帯（第Ⅰ区分）の場合は、下記の額が支給されます。

（住民税非課税世帯に準ずる世帯（第Ⅱ区分、第Ⅲ区分）の場合は、Point④へ）

給付型奨学金の支給月額

（住民税非課税世帯（第Ⅰ区分）の場合）

区 分		自宅通学	自宅外通学
大学・短期大学・専門学校	国公立	29,200円 (33,300円)	66,700円
	私立	38,300円 (42,500円)	75,800円
高等専門学校	国公立	17,500円 (25,800円)	34,200円
	私立	26,700円 (35,000円)	43,300円

① 生活保護世帯で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人は、カッコ内の金額となります。



Point 4

授業料・入学金のサポートは？

給付型奨学金の対象者は、別途、進学先の大学等に申込みことで、授業料と入学金の免除・減額を受けることができます。（住民税非課税世帯に準ずる世帯（第Ⅱ区分、第Ⅲ区分）の場合は、Point④へ）

授業料等の免除・減額の上限額(年額)

（住民税非課税世帯（第Ⅰ区分）の場合）

	国公立		私 立	
	入学金	授業料	入学金	授業料
大学	約 28万円	約 54万円	約 26万円	約 70 万円
短期大学	約 17万円	約 39万円	約 25万円	約 62 万円
高等専門学校	約 8万円	約 23万円	約 13万円	約 70 万円
専門学校	約 7万円	約 17万円	約 16万円	約 59 万円

① 「入学金」の免除・減額を受けられるのは、入学後3か月以内に申請して支援対象となった学生です。夜間部や通信教育課程の場合は、これとは別の額になります。



Point 5

世帯収入によって支援を受けられる額が変わるの？

世帯収入に応じた3段階の基準で支援額が決まります。

例 4人家族〈本人(18歳)・父(給与所得者)・母(無収入)・中学生〉で、
本人がアパートなど自宅以外から私立大学に通う場合の支援額(年額)

支援の区分は 世帯構成や年収 などで異なります	上限額	上限額の2/3	上限額の1/3
	給付型奨学金 約91万円 授業料減免 約70万円	約61万円 約47万円	約30万円 約23万円
年収の目安	～270万円 住民税非課税世帯 〈第Ⅰ区分〉	～300万円 〈第Ⅱ区分〉	～380万円 〈第Ⅲ区分〉

① 毎年6月に更新される所得(住民税)情報で区分が判定されるので、例えば高校生のときに申し込んで対象外だった場合も、進学後(秋以降)に申し込んで支援対象となる可能性があります。

進学資金
シミュレーター



自分が支援の
対象になるか
調べてみよう。

主なスケジュール

2022年4月から支援を受けようとする場合のスケジュールは次のとおり

事前に	準備	本人	文部科学省やJASSOのサイトで、制度の詳しい内容や自分が対象になりそうかを 確認してみよう。「対象かも」と思ったら学校から申込書類をもらいましょう。
2021年 4月～	給付型奨学金 申込み	本人	学校に必要な書類を提出し、インターネットで申し込みましょう。 また、マイナンバー(本人分・保護者分)をJASSOに提出します。
10月頃	通知	JASSO	支援の対象になったら通知が届きます。(予約採用の候補者決定通知) JASSOから給付型奨学金の支援対象として認められた人は、進学後に別途申し 込むことで、大学等の授業料・入学金の支援も受けられます。
2022年 4月	進学届 減免申込み	本人	支援の対象になる学校に入学したら、インターネットで進学届を提出します。 授業料・入学金の減免は、進学先の学校へ申込みします。
	支援の 開始	学校	奨学金の最初の振込は4月または5月です。 授業料や入学金も減免されます。

① 申込期間は学校により異なります。給付型奨学金(予約採用)の申込期間は高校に、授業料・入学金の減免の申込期間は進学先の
学校に、それぞれ確認してください。

i くわしい情報はこちら

まずは、文部科学省の特設サイト
「高等教育の修学支援新制度」をご覧ください。



<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>

奨学金に関するより詳しい情報は、
こちらからもご覧いただけます。



「奨学金の制度(給付型)」
日本学生支援機構 奨学金ホームページ
<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html>

i 支援内容や手続きなどについて、誰かに相談したいときは・・・

奨学金の貸与型、給付型、返還に関する
相談を受け付けています。

日本学生支援機構 奨学金相談センター

電話：0570-666-301 (月～金、9時～20時)

※ 土日祝日、年末年始を除く ※ 通話料がかかります。

お電話の前に、まずは、
特設サイト「高等教育の修学支援新制度」をご覧ください。

奨学金の申込手続きは在学中の学校で行います。

- ・手続きのスケジュールや個別の提出書類は、
在学中の学校に相談してください。
- ・マイナンバー提出については
「マイナンバー提出に関する専用コールセンター」
(申込関係書類の封筒の中に入っています)に
相談してください。